

第1部 基本理念

第1章 「まんなかビジョン」の意義と特徴

第1節 中部地方の国土交通を取り巻く環境変化と「まんなかビジョン」の位置づけ

我が国は、少子・高齢社会を迎え、右肩上がりの成長が期待できる時代から、より安定的な成熟型の時代へと移行します。また、自然環境問題、地球環境問題等に対する国民の関心が高まっています。中部地方においては、平成12年に東海豪雨が発生し、将来においては東海地震などの発生が懸念されており、自然災害に対する関心も高まっています。また、環状道路網の整備、「2005年日本国際博覧会」(愛称:「愛・地球博」)の開催、中部国際空港の開港等によって国内外の交流が拡大することとなります。このような状況を踏まえ、既存の行政の枠組みを越えた広域的な地域づくりが一層重要になっています。一方、昨今の厳しい財政状況に鑑み、真に必要な施策の峻別と重点投資、「量」より「質」の効率的な行政運営及び住民参画等により地域住民のニーズにこたえ、成果を上げる政策展開が重要です。

「まんなかビジョン」は、こうした情勢の変化を踏まえ、中部地方において、総合的かつ効率的な広域行政を目指し、国民本位、地域本位の地域づくりを実現するために、国、4県1市、地元経済界の共通ビジョンとして策定したものです。本ビジョンでは、今後の個別具体的な計画に対する指針として、概ね10～20年後の中部地方の将来像と地域づくりの目指すべき方向、その実現に向けた具体的な目標を示すとともに、今後5年程度で重点的に実施する各施策・事業をまとめた「当面取り組む主要なプロジェクト」を掲載しています。

第2節 「まんなかビジョン」の目的と特徴

1. 「まんなかビジョン」策定の目的

本ビジョンは、特に次のような目的を達成するために策定しています。

- 概ね10～20年後における中部地方の将来像と、それを実現するための地域づくりの目指すべき方向を明確にする
- 中部地方の将来像や地域づくりの目指すべき方向について、中部地方の地域づくり関係者の共通認識を醸成する

2. 「まんなかビジョン」の特徴

以上のような目的のもと、本ビジョンは特に次のような特徴を有しています。

- 国、4県1市、地元経済界の初めての共通ビジョン

国土交通省(中部地方整備局、中部運輸局、大阪航空局)、地方公共団体(岐阜県、静

岡県、愛知県、三重県、名古屋市）及び地元経済界（（社）中部経済連合会、岐阜県経済同友会、静岡県商工会議所連合会、愛知県商工会議所連合会、三重県商工会議所連合会）からなる「国土交通広域連携中部会議フォローアップ会議」をビジョンの具体的な検討体制として位置づけ、これら関係者の協働による初めての共通ビジョン（県境を越えた中部地方の目指すべき将来像）として、「まんなかビジョン」を策定いたしました。

○ 地域住民への多様なPI¹によって常に進化するビジョン

「まんなかビジョン」は、地域住民の方々への様々なPI¹（パブリックインボルブメント）を行いながら策定されてきました。今後も様々なPI活動を通して、より地域の課題に即したビジョンとなるように絶えず見直しを加えていきます。

○ 実践を重視した実効性の高いビジョン

「まんなかビジョン」を着実に推進するために、必要な政策に重点化を進めるとともに、無駄なくスピーディにサービスが提供できるように、関係主体が使いやすい実効性のあるものにします。

¹ PI（パブリックインボルブメント）：[Public Involvement]様々な情報交換や対話を通じて地域住民の意見を行政に反映していくための手法の総称。

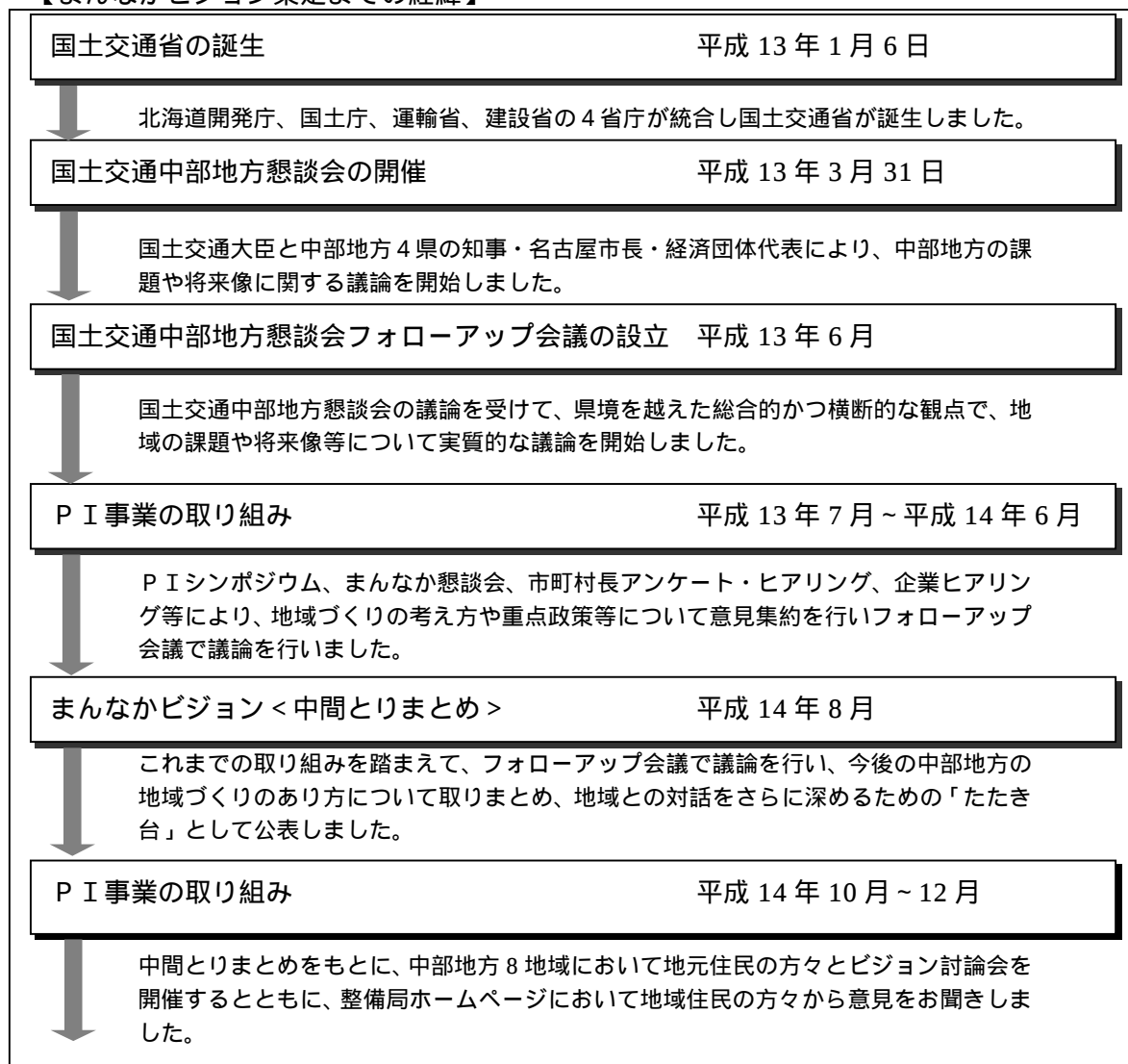
第3節 ビジョン策定に向けたこれまでの取り組み

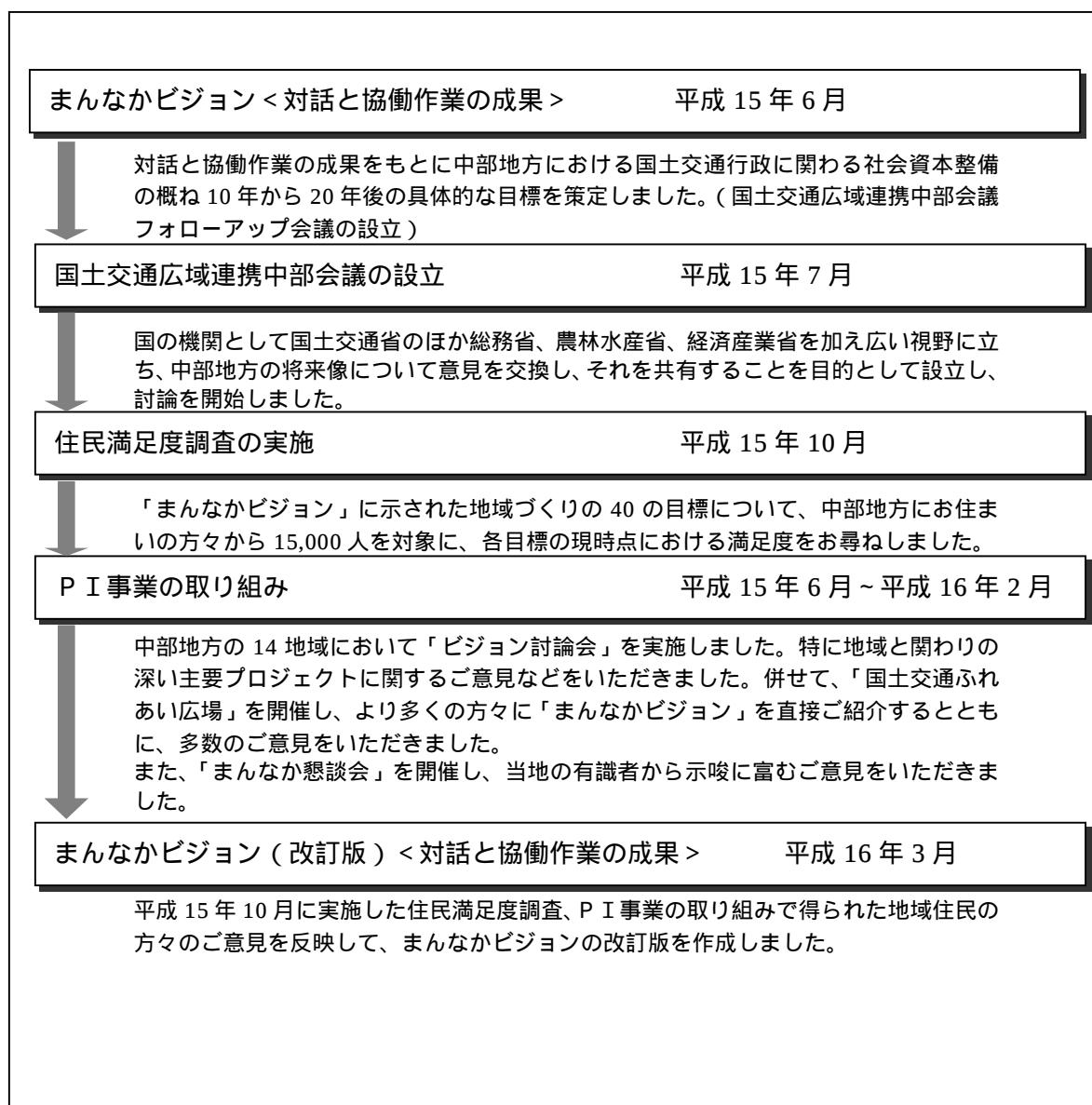
ビジョンの策定にあたっては、平成 13 年 1 月の国土交通省の誕生を皮切りに、「国土交通中部地方懇談会」や「フォローアップ会議」などを設置し、P I 事業を行いながら策定いたしました。

また P I 事業については、平成 13 年度と 14 年度の 2 箇年度にわたり、シンポジウムや新聞企画広告、P I 広報誌の発行やまんなか懇談会、中部地方 8 地域における「まんなか討論会」の開催などを行い、「地域の共通認識の醸成」と「地域のあらゆる人たちとの対話と意見聴取」に向けた取り組みを展開しました。

平成 15 年度は、前年度に引き続き中部地方の様々な地域において「ビジョン討論会」を実施するとともに、中部地方 4 県 1 市の 15,000 人の方に対し「住民満足度調査」を実施し、ビジョンに対するご意見をうかがいました。併せて、「国土交通ふれあい広場」を開催し、より多くの方々に「まんなかビジョン」を直接ご紹介するとともに、多数のご意見をいただきました。また、「まんなか懇談会」を開催し、当地の有識者から示唆に富むご意見をいただきました。

【まんなかビジョン策定までの経緯】





【これまでのP I事業の取り組み】

地域の共通認識の醸成（情報共有）

中部地方のグランドデザイン¹に求められる視点

国土交通P Iシンポジウム
（平成14年2月）

有識者が考える地域づくりの視点や問題意識を国民的議論の素材として広く社会に提供するためシンポジウムを開催し、今後の本格的なP Iの実践に向けた契機づくりとP Rをおこないました（聴衆者総数 340名）

地域づくりから見た中部地方の課題

新聞企画広告
（平成14年2月）

P Iの実践に向けた意気込みと、シンポジウム発言要旨、中部地方の現状における課題等を、広く中部地方の人々に発信し、本格的な議論の第一歩とするため、日本経済新聞を活用し、中部地方にかけて新聞企画広告を実施しました（購読者約30万人）

P Iによる地域づくり

P I広報誌
（平成14年10月（創刊号）～平成16年3月（第5号））

広く地域住民に対して情報発信資料として、中部地方の現状や課題に対する共通認識の醸成やP Iに対する理解を高めるため、P I広報誌を発行しました（のべ15万部発行）

地域のあらゆる人たちとの対話と意見聴取

有識者からの声

まんなか懇談会
（平成14年5月～）

今後の社会資本整備のあり方や国土交通行政のあり方を含めた中部地方の目指すべき方向について、各界の代表者から提言・意見をうかがいました（委員13名、計7回開催）

経済界からの声

企業ヒアリング
（平成14年1月）

産業競争力の強化や地域の魅力に関する企業ヒアリングを実施し（50企業・団体）国際競争力の強化や新産業の創出を図るためのニーズ等について意見集約をおこないました。

市町村からの声

市町村長ヒアリング・アンケート
（平成14年2月～3月）

中部地方の市町村長（364市町村）に対して、地域づくりに関するヒアリングやアンケートを実施し、地域づくりの考え方や重点施策等について意見集約しました。

地域住民からの声

ビジョン討論会
（平成14年10月～12月、15年10月～11月）

中部地方の一般の方を対象として、平成14年は8会場で、平成15年は13地域14会場で開催し、討論会やアンケート調査で多数のご意見をいただきました（参加者総数1,215人）

住民満足度調査
（平成15年10月）

「まんなかビジョン」に示された地域づくりの40の目標について、中部地方にお住まいの方々から15,000人を対象に、各目標の現時点における満足度をお尋ねしました。（5,099人から回答）

国土交通ふれあい広場
（平成15年10月～11月）

ビジョン討論会に併せて、ふれあい広場を開催し、より多くの方々に「まんなかビジョン」を直接ご紹介し、多数のご意見をいただきました（来場者数34,300人）

¹ グランドデザイン：[grand-design]大きな視野や長期の観点から組み立てる政策や戦略のこと。グランドとは、雄大な、主要な、総括的などという意味であり、デザインとは、構想、設計図、計画という意味。